GX率先実行宣言

社会全体のGX加速化に向けて、GX製品・サービスの早期社会実装が極めて重要であることから、当社は自らのScope 1、2の削減取組に加え、これらの製品・サービスが有するGX価値の評価を通じてGX製品の社会実装に積極的に貢献することで、サプライチェーン全体でのGXを推進することを宣言します。

1.早期の社会実装に貢献するGX製品

当社は、以下に関連するGX製品の早期社会実装に貢献します。

a.	分類	GI基金支援技術を活用した製品
	対象	CO2等を用いたプラスチック原料製造技術開発
b.	分類	GI基金支援技術を活用した製品
	対象	CO2等を用いたプラスチック原料製造技術開発

2.具体的な行動内容

当社は、前項で選択した事項に関連して、具体的には以下の行動を推進することで、GX製品の早期社会実装と社会のGXに貢献します。

a.	CO2等を用いたプラスチック原料製造技術開発
対象行動	研究開発・実証
概要	炭化水素やバイオマスを資源として再活用することを目的とした「炭素循環型の合成ゴム基幹化学製品製造技術の開発」はGI基金事業に採択されました。資源の再活用により、ゴムの主原料であるブタジエンとイソプレンを効率よく作り出す高度な技術を確立し、社会実装を目指します。

b.	CO2等を用いたプラスチック原料製造技術開発
対象行動	宣言対象製品の調達・購買
概要	GI基金事業「炭素循環型の合成ゴム基幹化学製品製造技術の開発」が実装された際に、そこで生成されるブタジエンとイソプレンから合成する合成ゴムをタイヤの主要原材料として調達・活用してゆきます。

3.サーキュラーエコノミーの推進

当社は、サーキュラーエコノミーを推進しGXを実現するため、自らのサーキュラーパートナーズ（CPs）への参画や、製造業者と廃棄物リサイクル業者との事業連携を自ら進めるとともに、再生材の調達を積極的に検討することによって、新たな資源の使用や消費を最小限に抑え、既存の資源の価値を最大化する経済システムの構築を目指します。

4.温室効果ガス削減目標の設定

当社は、サプライチェーン全体でのGXを推進すべく、Scope3の削減に向けて以下の目標を設定します。また、第2項に記載した行動内容が、Scope3の削減に対してどのような効果があるかを以下に示します。

※ 第2項に記載した行動内容がScope1,2の削減に資する場合は、Scope1,2の削減に関して以下に示します。

a.	CO2等を用いたプラスチック原料製造技術開発
削減対象	
目標年度	
基準年度	
目標削減率	
削減目標における選択対象の位置づけ	

b.	CO2等を用いたプラスチック原料製造技術開発
削減対象	
目標年度	
基準年度	
目標削減率	
削減目標における選択対象の位置づけ	

5.GX製品の社会実装促進に向けた目標の設定

当社は、前項に掲げた削減目標に基づき、以下の時間軸・定量的目標に沿って、第1項で選択したGX製品・技術及びそれらから派生するサービスの社会実装に貢献します。

a.	CO2等を用いたプラスチック原料製造技術開発
目標年度	
定量的目標	
選択対象に関する定量的目標の概要	

b.	CO2等を用いたプラスチック原料製造技術開発
目標年度	
定量的目標	
選択対象に関する定量的目標の概要	

6.適用範囲

当宣言は、以下の範囲まで適用されます。

適用範囲	自社単体

当社は、この宣言に基づいてGX価値を評価し、GX製品の早期の社会実装に貢献することで、サプライチェーン全体でのGXを推進してまいります。

（日付）2026年9月30日

（企業名）横浜ゴム株式会社

山石昌孝